

2023年

保護者向け情報シリーズ
Maryland州での特別教育サービス:

特別教育プロセス

特別教育プロセス

保護者の権利

IEP (Individualized
Education Program)
の理解について

中等教育への
移行



はじめに

Maryland州特別教育サービスに関する家族ガイドは、Maryland州の第21回保護者向け情報シリーズの1つであり、Maryland州の特別教育サービスのシステムにおいて、ご家族をサポートするための出版物コレクションです。この小冊子では、献身的な専門家のコミュニティに皆様を歓迎し、お子様の成功をサポートし、ご家族を支援するために、連邦法及び州法によって作られたプロセスをご案内したいと思います。

目次

4 ページ

特別教育サービス

5 ページ

特別教育とは何か？

6 ページ

Maryland州のIEPプロセス

11 ページ

保護者向けチェックリスト

13 ページ

質問がある、支援を求めている方へのご提案

詳しくはこちら

www.marylandpublicschools.org



Maryland州での特別教育サービスへようこそ

保護者は児童の教育において重要な役割を果たします。これは、特に障害を持つ子供を持つ保護者に当てはまります。あなたは、お子様が何を楽しめ、何に苦労しているかをご存知です。あなたは、お子様が来年、そして学校を卒業した後、何をやるかというビジョンを持っています。

お子様に障害があり、特別教育サービスが必要な場合、特別教育プロセスについて学ぶことが重要です。あなたはお子様の一番の代弁者です。特別教育プロセスを理解すれば、お子様のIEPチームと効果的に協力することができます。そうすることで、お子様は学校でもそれ以外でも成果を

揮することができるのです。あなたは、お子様の教育を決定するチームの一員です。あなたには、お子様のチームが必要とする専門知識と理解があります。

この小冊子では、Maryland州における特別教育の概要を説明しています。また、プロセスにおける自分の役割を理解し、会議に備えるためのヒントも得られるでしょう。



法律で定められていること

IDEAについて

個別障害者教育法 (IDEA) は、国内全土で障害がある児童がサービスを受けられることを保証する連邦法です。IDEAは、720万人以上の適格な乳幼児、障害のある児童や青少年に対して、州や公的機関が早期介入や特別教育、関連サービスを提供する方法を規定しています。Maryland州は、障害のある出生から21歳までの児童に、シームレスで包括的なサービスを提供しています。



特別教育とは何か？

特別教育とは、児童固有のニーズに合わせて特別に設計された指導のことで、場所や授業のことではなく、サービスです。言語療法、カウンセリング、理学療法などの関連サービスが含まれる場合もあります。家族には無料で提供され、さまざまな環境で実施されます。特別教育サービスを受ける児童は皆、無償かつ適切な公教育 (Free Appropriate Public Education (FAPE)) を受ける資格を有します。つまり、児童へのサービスは無料で提供されます。サービス内容は、児童の具体的なニーズに基づいて決定されます。目標は、児童が学校で進歩し、学校卒業後の生活に備えられるようにすることです。



児童検索

Maryland州の学校制度または地方教育機関 (local education agencies (LEA)) は、特別教育を必要とする生後6ヶ月から21歳までの児童を探し、特定し、評価する必要があります。これには、以下のような環境の児童が含まれます。

- 自宅学習；
- 私立学校；
- ホームレス；
- 移住者、または移動が多い；
- 国の被後見人；
- 進級しても、障害の疑いがある。



保護者の役割：

お子様が公立学校に所属していない場合、特別教育ディレクターや在籍校またはLEAの児童検索事務局にご連絡ください。お子様が公立学校に通っている場合は、校長先生か担任の教師にご連絡ください。



Maryland州のIEPプロセス

保護者はすべてのステップで役割を果たす

紹介/スクリーニング

お子様に障害があると思われる場合は、IEPチーム会議に参加し、心配なことを話してください。校長または教師に書面で要請するのがベストです。また、懸念がある場合は、教師が紹介することもできます。

学校は、あなたの懸念について話し合い、入手可能な情報を確認するために、あなたを会議に招待します。チームは、学級の成績情報、州の評価、郡の評価結果、あなたから提供された情報、その他の関連情報を検討します。

この会議の成果は次のようなものが考えられます：(1)教育的障害の疑いがない、処置は必要ない、(2)今すぐ教育的障害の疑いがない、公式または非公式の介入を実施し、指定された期間内にデータを見直す、(3)教育的障害の疑いがあり、追加情報が必要である、(4)教育的障害の有無を判断するのに十分な情報がある。

会議の結果がどのようなものであったとしても、会議の後、推奨事項のいずれかが実施される前に、事前書面通知 (Prior Written Notice (PWN)) と呼ばれる書面による説明を受けることになります。また、「手続き上の保護措置」と呼ばれる文書をお送りし、今後の権利についてお知らせします。

IEPプロセス



保護者の役割：

IEP会議に出席できない場合は、できるだけ早く学校に連絡し、日程変更手続きをしてください。招待状に連絡先が記載されています。会議では、あなたの心配事や、情報を得た可能性のある医師やその他の人々からの報告を共有します。



会議の招待状

IEP会議の少なくとも10日前には、招待状が届きます。招待状には、会議の目的、他の招待されている人、その人たちの役割や役職が記載されています。また、会議の日時と場所も記載されています。会議は共同でスケジュールする必要があります。

また、会議の5日前までに、会議で話し合われる文書のコピーを受け取ります。

会議に出席できず、日程の変更が必要な場合は、できるだけ早く学校に伝えてください。会議に直接出席できない場合は、バーチャルまたは電話による出席を選択できます。



IEPチーム

IEPチームのコアメンバー：

- 保護者；
- 児童の一般教育教師；
- 児童の特別教育の教師；
- 管理者または被指名人；
- 評価結果を解釈できる評価者；
- 学生（資格がある場合）；
- 保護者、LEAまたは公的機関（Public Agency (PA)）から招聘された生徒に関する知識を有するその他の個人。

生徒の一般教育者がいない場合、児童が障害のない同級生と一緒にいる可能性があれば、学年の教師が出席します。

評価と査定

教育的障害の有無を判断するために追加情報が必要な場合、チームは影響が疑われるすべての分野の評価を推奨します。学校スタッフは、児童のニーズや強みを理解するために、さまざまな種類の評価や情報収集戦略を用います。

チームの検討事項：

- 既存のデータと評価結果；
- 保護者であるあなたからの情報；
- 学級、州全体、地区の評価；
- 授業観察
- 教師からの情報。

懸念されるすべての分野で査定が行われます。これには、社会的感情や行動、学業、一般的認知検査、言語、運動技能などが含まれます。収集された情報は、児童がサービスを受ける資格がある場合、何ができるかのスタート地点を設定するのに役立ちます。

評価の同意書を受け取ってから60日以内に、評価結果を検討し、児童がサービスを受ける資格があるかどうかを判断するために、再度会議が行われます。会議の少なくとも5日前までに、すべての評価結果と討議される書類のコピーをお渡しします。



保護者の役割：

アンケートやチェックリスト、その他の書類への記入を求められる場合もあります。必要事項を記入し、できるだけ早く返送してください。必要であれば質問し、指示に従ってください。

評価に同意できない場合は？

評価結果に不服がある場合は、公費で独立した教育評価 (Independent Educational Evaluation (IEE)) を請求するか、紛争解決のために調停または適正手続き審問を請求できます。

IEEとは、学校制度外の人が行う評価のことです。学校は、あなたの資金提供の要求に同意するか、あるいは拒否し、要求を受けてから30日以内に適正手続き審問を申請します。自費でIEEを受けることも可能です。IEPチームは、児童に関する教育的決定を下す際に、すべての外部評価を考慮する必要があります。紛争解決の選択肢については、本シリーズの「保護者の権利」小冊子をご覧ください。



特別教育の対象となる障害カテゴリーとは？

- 自閉症
- 視聴覚障害
- 発達遅延
- 感情障害
- 難聴を含む聴覚障害
- 知的障害
- 複数障害
- 整形外科的機能障害
- その他の健康障害
- 特定の学習障害
- 言語障害
- 外傷性脳損傷
- 視覚障害

IEPの実施

IEPは契約書のようなものです。条件は尊重されなければならないので、明確に理解する必要があります。チームがIEPのすべての部分を明確に定義し、すべてのチームメンバーが同じ理解を持つようにすることが重要です。質問し、IEPの文書自体に書かれていることが明確であることを確認し、全員が同じ理解を持つようにします。

サービスや支援は、IEPが最終決定された後、できるだけ早く開始されますが、チームによる提案を確認し、検討するための適切な時間が確保された後に開始されます。

学校のスタッフは、児童の目標や目的と一緒に考えます。児童の担任教師全員に、教室で使用すべき便宜を含め、IEPに記載されている情報が与えられます。学校のスタッフは、目標や目的に対する進捗状況のデータを収集します。

4半期ごと、またはIEPに記載されたとおりに、進捗状況の報告を受けます。児童の進歩が見られない場合は、IEP会議を開き、IEPにどのような変更が必要かを話し合う必要があります。児童に、より多くの、あるいは別の支援の必要性や、目標調整の必要性が発生する場合があります。



保護者の役割:

お子様のために家庭でできることは何か、学校のスタッフに尋ねてみましょう。懸念事項やお祝い事を教師と共有しましょう。新しい情報や懸念事項がある場合、または児童の進歩が見られない場合は、面談を申し出てください。

IEPの年次レビュー

IEPチームは、児童の進捗を確認し、IEPを見直すために、少なくとも毎年1回会合する必要があります。これは、児童が進級しても、IEPが児童のニーズを満たし続けるために必要なことです。IEP会議は、保護者または教師が会議を要請すれば、開催頻度を増やすことができます。

会議で話し合われるすべての文書は、IEP会議の5日前にご自宅に発送されます。会議の5日前になっても書類が送られてこない場合は、見直す機会が得られるまで延期を要請できます。IEPの草案がご自宅に発送される場合もあります。IEP草案は話し合いの出発点であることをご留意ください。ご自宅に届いた草案は、会議中にいつでも変更できます。

ご自宅に届いた文書を確認し、疑問点はメモしておくことが重要です。家庭やその他の活動で、お子様が学校で成果を出すために、役立つことを共有できるように準備しておきましょう。チームがそれらに対応できるように、会議の前にお子様のケースマネジャーに質問や提案を送ることをお勧めします。

修正案や明確化案を共有したり、チームが最終的に提案した内容に対して、反対意見がある場合は、その旨を伝えるようにしましょう。あなたはIEPチームの対等な、そして非常に貴重なメンバーです。あなたの声や質問は、チームにとってもプロセスにとっても重要です。



保護者の役割:

会議に参加できない場合は、日程を変更してください。心配事や成功体験をチームと共有してください。学校や宿題などに関連して、家庭で気づいたことを話してください。意見を述べ、変更点を提案してください。会議の前後にご自宅に届いたすべての書類を確認してください。



保護者の役割:

新しい情報や懸念事項があれば、チームの他のメンバーと共有してください。再評価の一環として、ご自宅に送付された書類やチェックリストなどに記入し、返送してください。すべての会議に参加してください。意見を述べ、懸念や意見を共有してください。

再評価

少なくとも3年ごとに、IEPチームは児童がまだ特別教育サービスを受ける資格があるかどうかを決定する必要があります。また、児童のニーズや強みについて、最新の情報を持っているかどうかを確認します。保護者や学校スタッフは、何らかの懸念事項があったり、新たな情報が必要な場合には、より早く検査を要請することができます。

IEPチームは、児童が引き続きサービスを受ける資格があるかどうかの確認や、現在の成績レベルを判断するために、追加情報は必要ないと判断する場合があります。チームはまた、追加評価が必要だと判断する場合があります。その場合、評価の完了を許可してから90日以内に再度会議を行い、その結果について話し合い、必要であればIEPを修正します。

児童が特別教育サービスから除外するには、児童の再評価が必要になります。チームが児童を除外するために追加情報が必要ないと判断した場合、児童を除外する前に、あなたは評価を要求する権利があります。



保護者向けチェックリスト

会議前

- 会議の招待への返信。
- 自宅に届いたすべての文書の確認。
- 児童に対するビジョンの作成・更新。
- 会議で共有したい質問や懸念事項の書き出し。
- 保護者の意見準備(会議前に送信可能)
- 通訳依頼(必要であれば)。

会議中

- 児童の年齢に関係なく、会議に参加させることを検討する。セルフアドボカシー(自己権利擁護)のスキルを身につけ、チームが児童をより理解できるようになります。14歳以上の生徒は、IEP会議に招待する必要があります。
- 自分のビジョンと意見をチームと共有。
- 質問および自分の考えの共有。

会議後

- 会議後に届いたすべての文書の確認。
- 5日以内に文書が届かない場合、または送付された書類に疑問や不安がある場合は、IEP委員長または担任の教師に連絡してください。
- 児童の学校の勉強・宿題の実施方法を把握する。
- 懸念事項がある場合、担任の教師と共有する。
- 必要であればIEP会議を要請する。書面またはEメールで行うのがベストです。

用語集

評価

評価の一部として、関心領域のすべてにおいて特別なテストが実施されます。このテストはお子様の能力やニーズの特定に役立ちます。

児童検索

特別教育および関連サービスが必要な障害のある児童を特定し、探し、評価するために、州および地方管轄区域での実施が法律で義務付けられている活動。

同意書

提案方策に対する契約書。

評価

児童に障害があり、ニーズに合う特別教育と関連サービスを求めているかどうかを判断するために、保護者から得た情報、既存のクラスデータ、評価結果などをレビューするプロセス。

FAPE

特別教育サービスを受ける児童は皆、無償で適切な公教育を受ける資格を有します。

IDEA

個別障害者教育法。こちらは国の特別教育法となります。

IEP

The Individualized Education Program。こちらはIEPチームが作成した文書です。お子様に提供されるサービスやサポート、専門的な指導について説明しています。児童一人ひとりのニーズを基に、IEPを作成しています。

IEPチーム

特別教育サービスの必要な児童に関する意志決定を下す人々のグループ。保護者はIEPチームの重要メンバーです。

最も制約の少ない環境

(Least Restrictive Environment (LRE)) 児童のIEPが適合する場面。一般的に、学校は障害のある児童を、できるだけ障害のない同級生と一緒に教育することが義務付けられています。

保護者

生物学的な(実の)または養父母としての親、保護者、親代わり、または代理親。児童が(政府機関の保護下に置かれた)被後見人である場合、この用語に州は含まれません。

配置

児童が特別教育サービスを受ける場所。目標やサービスの記録後に配置が決定されます。





特別教育プロセスに関するスケジュール

実行すること	時期
保護者：IEP会議の案内状を受け取る	IEP会議の10暦日前
保護者：IEP会議で検討される書類を受け取る	IEP会議の5営業日前
保護者：IEPの最終版、または最終版でない場合はIEPの草案を受け取る	IEP会議の5営業日後
資格判断評価について話し合う会議の開催	書面による同意後60日以内
児童に資格があると判断された後にIEPを策定	児童が特別教育を受ける資格があると認められてから30日以内
IEPの実施	できるだけ早く
進捗状況の報告	少なくとも四半期に1度、児童のIEPに記載
IEPの見直し・更新(年次レビュー会議)	少なくとも年1回
IEPチーム：再評価の必要性の検討	新しい情報が必要ないとチームが判断しない限り、少なくとも3年ごと
再評価結果の検討およびIEP修正(必要であれば)	書面による同意後90日以内
学校制度：独立した教育評価(IEE)の要請への対応	要請を受けてから30暦日



質問がある、支援を求めている 方へのご提案

地域の家族支援サービスコーディネーター

LOCAL EDUCATION AGENCIES	誕生～5歳	5歳～21歳
Allegany	240-920-6829	240-920-6829
Anne Arundel	410-562-6303	410-424-3258
Baltimore City	410-396-1666	443-642-3848
Baltimore County	443-809-9696	443-809-5443
Calvert	443-550-8406	443-550-8375
Caroline	410-479-3609	410-479-3609
Carroll	410-751-3955	410-751-3955
Cecil	410-996-5637	410-996-5637
Charles	301-934-7456	301-934-7456
Dorchester	410-901-6915	410-901-6915
Frederick	240-578-1244	240-236-8744
Garrett	301-533-0240, x2	301-914-1351
Harford	410-273-5579	410-273-5579
Howard	410-313-7161	410-313-7161
Kent	410-778-5708	410-778-5708
Montgomery	240-777-4809	240-753-9487
Prince George's	240-521-5054	301-431-5675
Queen Anne's	410-556-6103, x10	410-758-2403, x135
Somerset	410-651-1616, x11385	410-651-1616, x11385
St. Mary's	301-475-5511, x32218	240-309-4113
Talbot	410-822-0330	410-822-0330
Washington	301-766-8221	301-766-8221
Wicomico	410-677-5250	410-677-5250
Worcester	410-632-5234	410-632-5234
Maryland州盲学校 (Maryland School for the Blind)	410-444-5000, x1489	
Maryland州ろう学校 (Maryland School for the Deaf)	443-277-8899	
Maryland State Department of Education	410-767-0255	

MARYLAND州教育局 (MARYLAND STATE DEPARTMENT OF EDUCATION)

Mohammed Choudhury

州教育長

Dr. Deann Collins

教育学習局副教育長 (Deputy Superintendent for Office of Teaching and Learning)

Clarence C. Crawford

Maryland州教育委員会会長 (President, Maryland State Board of Education)

Wes Moore

知事

© 2023 Maryland State Department of Education

この出版物は、Maryland State Department of Educationの早期介入および特別教育サービス部門 (Division of Early Intervention and Special Education Services) によって米国からの資金提供を受けて作成されました。教育局、助成金 #H393A090124A、PL 105-17/111-5 障害者教育法/米国復興再投資法に基づく幼児および家族のための特別教育助成金「回復基金」、Maryland State Department of Education, Division of Early Intervention and Special Education Services は、州および地方機関および組織が調整する州全体のサービスおよび支援プログラムであるMaryland Infants and Toddlers Programの主任機関です。この出版物に含まれる情報をコピーまたは共有する使用者は、以下を著作権表記しなければなりません: Maryland State Department of Education, Division of Early Intervention and Special Education Services, Dr. Deann Collins、教育学習局副教育長 (Deputy Superintendent for Office of Teaching and Learning)。



410-767-0100



www.marylandpublicschools.org



200 West Baltimore Street
Baltimore, MD 21201-2595